

「朝、言気（言葉で元気になる）に目覚めることに感謝して!」

—置かれた場所で咲きなさい—

当たり前のことをあたりまえにできることにありがとう
辛い、苦しい体験こそ、学びがあり、自己成長できることにありがとう
すべてに感謝と感動と愛の心、最後まで自分を信じる自信をもって、
決意できる人に育つことを願って!・・・成長こそ行動変化・・・



園長 高杉美稚子

春は私の一番好きな季節です。園庭の桜も真っ盛り、春爛漫、新しい年度がやってまいりました。お子様のご入園、ご入会、ご進級を心からお祝い申し上げます。おめでとうございます。皆様のおかげで平成26年度を迎えるにあたり、今日ここに新しい園児、保護者の皆様、仲間とスタートを出来る事を心より感謝申しあげます。

私は「教育は感動と思い出を作ること」「教育は知ることの喜びを与えること」「教育は真の自立への援助の道」と考えています。

この実現のために教育理念があり教育目標があります。この実現のために親、職員、仲間、友達がいるのです。この実現のために、どうぞ、この手を取り合ってください。かわいい子ども達の為に。それは、とりもなおさず、保護者として、教師として、人間としての自己成長につながります。

『情けは人の為ならず』、結果として、自分にすべてかえってくるのです。目の前の事柄や手段や結果のみにふりまわされず、問題の奥底にあるものに目をむけていきましょう。

「この子がいたから、親になれた
この子がいるから、教師をさせていただく 何事にも感謝する心」
私達はこれを忘れてはならないでしょう。

この気持ちを大切に、すべての事、すべての人に感謝しながら、子ども達、保護者の方、そして、職員と感動のある1年にしたいと考えております。


そして、同時に、子ども達は、人間は失敗して初めて育つのです。だから、自分らしく精一杯最後まであきらめないこと、自分の力を、思いを人に伝え十分に発揮すること、そして、親も子どもも教師も、心を一にする事を大切にしながら、「失敗に感謝し、失敗に学ぶ」姿勢を忘れずに、そのことを大切に、教育を進めてまいりましょう。

何も心配することはないのです。失敗したら、落ち込むのではなく、そこから何を考え、学び行動変化—成長したかが大切なのです。迷いながらも、勇気を持って挑戦する事は、人を成長させます。しかし、行動を恐れ、結果を恐れ、何もしないのは、停滞退化でしかありません。人が、呼吸をし生きているということは、何の成長、進歩もない人生を過ごすためではありません。生きることは、喜びであり、感動であり、出逢いです。生きることは成長であり、行動変化 エクステンジ、進化することです

一粒の花の種があります。机の上において眺めても花は咲きません。適宜な時期に、適宜な土の深さに埋め、適宜な水と光に包まれて始めて花は咲きます。同じように埋めても、同じようには咲かないかもしれないし、枯れてしまうかもしれません。自分だけどんなに努力しても、それだけでは結果は生まれません。どうしても周囲の協力が必要です。人間は社会的動物です。一人では生きてはいけません。

今、こうして生きているのですら、人の支えと不思議な縁でいかされているのですから。それがわかれば謙虚に、そしてすべてのことに感謝して生きられます。周りの人に感謝できない人は、悲しい人生です。

なぜなら、人と人とのつながりが持てないからです。社会的動物、真の人間になるためには、人と繋がること、人を支え、人に支えられて、人を頼って、人に頼られて本当に頑張ることが出来るのです。



だから、まずは、自分から感謝して、感謝されて、自分から愛して、愛されて人に育っていくことが大切です。その源は『**ありがとう・ごめんなさい、わからないから教えて、助けて**』の気持ちを伝えることから始まるのです。

さあ、自分育てを今一度、始めましょう。今日からでもいいのです。遅くてもいいのです、あせらなくていいのです。自分のペースでいいのです。始める事が大切です。気づいた時から始める事が大切なのです。

と同時に問題の奥底にあることにしっかり目向けていきましょう。目先のことに振り回されずに。大丈夫、今年もゆりの樹幼稚園の多くの仲間がいるのだから・・・それは子供だけではなく、親も、職員も同様です。ここに集ったことは「偶然ではなく必然」です。

だって、皆さんはこんなにも、我が子のことが、園児達のことがかわいいのですから。大好きなのですから、子どもの事を大切に思わない人はゆりの樹幼稚園には集まってはいません・・・だから。子どもを愛せている人はその事で自分を愛せることができるようになるのですから、すべて大丈夫です。自分のことを信じて、ゆったり、このゆりの樹幼稚園で、でもう一度「自分育て」をしておきましょう。

最終的に、自分が人の評価ではない、自分の中のもう一人の自分が自分を認めてあげる日、真の自立の日が迎えられる日まで頑張りましょう。そんな幼稚園（成長の場）を共に作りましょう。この実現の為に手を取り合っていきましょう。それは、とりもなおさず、人間として自己成長につながります。前を向いて歩くことが大切です。


失敗したら、そこで学ばないといけません。次にどうしたらよいか、考えればいいのです。怖いのは、失敗を恐れて一歩を踏み出せないことです。迷いながらも、勇気を持って挑戦する事は、人を成長させます。『育力は人の為ならず』結果として、自分にすべてかえってきます。目の前の事柄や手段や結果のみに振りまわされず、問題の奥底にあるものに目をむけて子育てを自分育てをしていきましょう。すべては、プラス思考です。

人生、長い。でも、過ぎてしまえば、いとおいしくらい、悲しいくらい短い。もう一度したくたってできないのです。過ぎてしまえば、今というときは何歳になっても、一番輝いている・・・こんなに輝いていた時間はないのですよ。「**いくつになっても、今が一番人生で若いのだから・・・**」


だから、苦しくても、辛くても、時に情けなくても、そこから学んで、成長する自分を自分が一番喜んで、楽しんで、自分育て、自己成長を自分が楽しめば、何か起こっても、自分が一番生き生きとしてくるのです。

その自分の姿を見て、何より自分が、あなたが、一番幸福になれるのです。そして周りを明るく元気にもするので。だから、ムリせず、ムラなく、ムダなく、そして時にムリすることがあってもいい、ムラ、ムダがってもいいと、自分で自分を許す心も持ちながら、楽しんで、感謝して、感動して、自分の人生に「心の原風景-感動と思い出」を一つでも多く残せるように、がんばりましょう。楽しんで生きる人生、苦しんで生きる人生。どちらも同じ時間、空間です。

そして、感動と思い出は誰も作ってくれるものではありません、自分の手で作るのです。感動と思い出は、その人がそれぞれの立場で、精一杯頑張った分だけ平等にかえってきます。「Should-ねばならない」から「Will-したい」へ心を転換しましょう。その為には

- 
- 1、感覚を鋭敏にして観察力と感受性と表現力を持つこと（見る力、聞く力、感じる力、表す力）
 - 2、目標を明確にすること。
 - 3、3つ以上の視点を持って、常に物事の両面を見て、フレームを変えて、柔軟性を持つこと
 - 4、今日できる事を、自分にできるところから今やり始めること

全てのできごとには肯定的な意味があります。自分にとって必要だからその事が起きているのです。「今ここ」に生きていれば、失敗はありません。過去に生きるから、失敗と後悔があり、未来に急ぎすぎるから、不安と焦りがあるのです。今にいれば結果があるのみです。そして結果ではなく今、ここでどうするか、そしてあなたがどうしたいかが大切なのです。



冒頭に「置かれた場所で咲きなさい」

という言葉を書きました。これは最近読んだノートルダム清心学園理事長『渡辺和子先生』の言葉です。

「咲くと言うことは、仕方がないと諦めるのではなく、笑顔で生き、周囲の人々も幸せにすることなのです。そして置かれた場所こそが、いまのあなたを幸せにする居場所なのです。置かれたところで自分らしく生きていけば、必ず、見守って、助けてくれる人がいる。そのことが信じられて、自分が自分を安心させるのです。咲けない日はその場所で、下に、下に伸びましょう」

また

「置かれた場所で咲くも咲かないのも、どのように咲くのかも自分次第。人は自分の生き方を決める自由がある。幸せへと導くためには発想の転換が+助けとなる」

と書かれています。人はどんな場所でも幸せを見つける力を持っているのです。

「幸せとは、そう感じる自分がいること、そのためには人生は楽しむためにあるのではないかという事に気づくこと。」

楽しい事を探している人はいっぱいいるけれど、今、目の前にあることを楽しめる エンジョイ 資質をもっている人はまれです。そしてその資質を持つことこそが、私たちの人生の目標だと思うのです。不愉快の思うことすら楽しめる自分であること。

目標は二つ、リラックスを感じることに、自分にとってのリラックスはなにかという事を知ること。どんな事も楽しむ気持ちを持つこと。

今いる、このゆりの樹幼稚園や家庭が自分にとってよい場所で、リラックスをすることが出来る自分になれば、どこにいても、いつでも、リラックスを感じる頃が出来るでしょう。幸せの青い鳥は常に自分の側にいるのです。

今、この場所で、幸せを感じる事が出来なければ、どこにいても、感じることは難しいのではでしょうか。幸せを感じることはその人の能力だと思います。そしてその力は磨く事が出来ます。その為にも、過大評価でも過小評価でもない等身大になりたいけれど、そうでないと自分が見えるときさえも楽しめる自分でありたいと思います。

その為には置かれた場所、巡り合った「ゆりの樹幼稚園」の教育スピリットを自分の中に包み込んで、理解して頂くことが最も大切です。家庭との教育理念のミスマッチが一番不幸なことから・・・
もちろんそこから学ぶこともたくさんあるのですが・・・

さて、ゆりの樹幼稚園の教育のキーワードは三つです。『安全』『安心』『感動』の三つです。

一つ目は『安全』これはゆりの樹幼稚園独自の他では見られない『物的環境』です。

ゆりの樹幼稚園の教育のキーワード、二つ目は『安心』です。それは安心して預けていただける魅力あふれる『人的環境』です。園児たちの心の安定と皆の先生に見守られるという安心感も更に図ることが出来ます。

ゆりの樹幼稚園の教育のキーワード、三つ目は『感動』です。

子ども達が行動変化し、成長する姿（エクステンジ）をみて、保護者の方が感動し、我が子に感動の言葉をかけることが子ども達の成長に一番繋がります。そして、その姿を見て私達職員も、感動し、教職員としての人生を充実させることが出来ます。感動のないところに成長も教育もないと私は考えます。

「目に見える教育をすることも難しいけれど、本当に大切な教育は目には見えない部分、心の教育です。」

その為には、どうしたらよいでしょうか。





その為に必要なことがゆりの樹幼稚園が考える体感を通した「感動の教育」なのです。

幼い子どもの教育の為に、また職員の資質の向上のためには、職員同士の連携、子どもとの連携、家庭との連携、そこには信頼が最も大切です。

そして、親も子どもにも、「先生大好き。ゆりの樹幼稚園 最高！」というこの信頼関係を持って頂くことで教育の効果が一層上がるのです。幼児期は、依存から自立に向かって成長していく過程です。親から次第に離れて、友達の励ましや支えを受けたり、認められる事によって自分の力を貯えてきます。

感動のある体感教育を通して、幼児自らの経験として組こんでいく楽しさと必要性を知っていく時期でもあります。大勢の仲間がいて、仲間と一緒に生活を共有し、互いに影響しあって、「共に育ち合う喜び」を知っていく時期だといえます。これは大人も一緒です。集団生活において、子どもだけでなくまずは親同士、親と職員がこの「共に育ち合う」事が一番大切な事です。皆がいるからこそ成長できたと思える、信頼関係が大切です。1人の力が10人、あるいは100人になることがゆりの樹幼稚園の教育の願いです。

それぞれが力を出し合い、相手の欠点を補い、助け合って支えあって、多くのエネルギーを生み出すまずは職員集団、保護者集団、クラスの仲間達であってほしいと切に願います。子ども達の為に、教師も親も決してお互いの配慮のなさで、10人の力をそれ以下に減らしてはならないのです。マイナスの要因をもたらす1人には決してならないように努力しましょう。

皆がいて、力が結束して、パワーを生み出す集団になりましょう。この人がいてくれたから、今の私があると感謝できる心を持ち、この人がいてくれたから、助けられ、成長できたといってもらえる大人親・教師になりましょう。おけが一番短くなったところから水は溢れ出します。どんなに素敵な人が多くいても、一人の配慮のなさが全体の成長を止めます。だから皆で、勇気と知恵を出し合って、謙虚さと柔軟性と正直な心、愛と思いやり勇気をもって、親も先生も子どもと共に「育ちあい」ましょう。『ありがとう』の言葉を忘れずに・・・



親は子育ての中で、教師は保育の中で、いつれ自分の課題に直面することは避けられません。自分の問題としてとらえた時間問題は既に解決に向かっています。誰かのせいになっている間は問題は閉じ込められてしまいます。親や教師は子どもの問題によって、子どもによって教育されます。

このときの自分自身や、周りの人との対話で自分の自信を成長させるほかありません。だから「子育ては自分育て」なのです。

そして、自分の気づきに、自分の奥底にある感情に気づいて素直に表現すること エンターテイメント です。素直になれば、柔らかくなれます。正直であれば、力が入りすぎることはないからです。なかなか難しい場面あるかもしれませんが、同じ子どもたちを育てる親、教師としての喜び、悲しみ、苦しみなどの奥底にある感情は共通するものがあります。

たとえ、行動パターンや、考え、立場は違っていてもその感情は理解しあえます。だから自分の行動にある感情に気づいて表現することが、必要なのです・・・。その事を表現することによって、お互いの悩みや、驚き、疑問、喜び、苦しみ、悲しみを共有することが出来、お互いの理解が増し、最終的に互いに変わっていくことが出来ます。

立場が違えば、行動や、考えが違って当然です。そして、その違いを認めた上でのお互いの深い理解が大切です。その事を越えた向こうでの理解が大切です。そうすることで、行動や考えの違いを認めることが出来るようになります。人間が、皆、全く、考えや行動が同じであることのほうが恐ろしいですね。感情の理解が出来れば、行動や考え、方法は違っていいのです。それが個性です。それこそが人間社会の教育だと私は考えます。



さて、平成26年度、新しい一年の幕開けです。どんな日々を過ごすかは、全て自分しだいです。子ども達、保護者の方、そして私たち職員にとっても、思い出に残る一年になりますよう、職員一同力をあわせて頑張りましょう。

子ども達の為に、思いを、魂を、心を、力を尽くしましょう。いつも子ども達を信じ、子ども達を見守りましょう。

その為に必要なことは・・・この幼稚園で、子どもたちが小さな幸せを見つけていく方法・・・その為には、「ゆりの樹幼稚園」の教育方針をもう一度、心に刻んで頂くことが大切です。

新年度にあたり、毎年のことですが、今一度教育方針の確認をして頂きたいと思います。そして、しっかり理解して頂き、子ども達の成長為と幸せの為に手を取り合って、心をつなげて歩いていきましょう。

まずは小さなはじめの一步から・・・失敗とやり直しを恐れずに

★ゆりの樹幼稚園で目指す教育の三つの柱★

- 1に「真の自立への道」（個別性と共感）
- 2に「知ることの喜びを与えること」（自己成長の継続と問題解決能力）
- 3に「感動と思い出を作ること」（生命の尊重と危機管理能力）



★三つの教育の根幹★

- 1、**共育**—自立への援助として、子どもと同じ目の高さになって、同じ純粋な心をもって、子どもを取り巻く教師が、保護者がともに育つ「共育」
- 2、**響育**—感動と思い出を持って心と心が響きあう、子ども同士、大人同士、子どもと大人が、それぞれが問い掛けたことがかえってくるそんな「響育」
- 3、**驚育**—知ることの喜びは、驚きと発見の連続を育てる「驚育」でありたいと考えます。
この三つの柱、三つの教育の実現のためには、「セルフコントロールできる子どもに育てること—自己決定能力のある子どもにすること」が大切にあると私は考えます。そこで、決断の教育の循環が大切になってくるのです。

★ゆりの樹幼稚園が考える教育の循環

「自己選択→決断→承認→自信→自他分離→個別性→共感→自立」の教育の循環を通して、真に自立し、自分の事が大好きな子ども達を育てていく「自分が大好きで、自分が信じられる」教育です。

この教育は、子ども達が自ら選択、決定し、自己承認が出来る 日々の保育を通してその年齢に不可欠な子ども達の望ましい成長と発達を促す教育でもあります。子どもが自分で決めるということはとても大切なことで、自分で決めるのかも含めて子どもに任せて待っていてあげるところに子どもの自主性が育ちます。

自分で自分を律する（セルフコントロールできる）ことが出来れば、人は切れません。自分で決めるためには、「小さくても自分にとって大切なことを、自分の感情に気付いて、自分で決めるという体験が必要」です。いつするかも含めて、自分で決めていいとなると、自分の衝動や欲求を抑制したり、先延ばしにしたり自分で出来るようになって行きます。この「セルフコントロールできる子どもに育てること—自己決定能力のある子どもにすること」の課題は、友達とのかかわりの中で育つことがもっとも大切です。それが三つの友達とのかかわりです。

★ゆりの樹幼稚園が考える三つの友達とのかかわり

- 1、「私は私」という自分の存在の確立
- 2、「私とあなた」という二者の関係、共に生きるということ
- 3、皆の中の自分という存在





『心の教育とは』ルールを教えるのではなく、なぜそうしないといけないかという気持ちを教える事「片付けることが大切」という事を教える事が教育ではなく、片付けると気持ちが良いという気持ちを教えるのが心の教育です。この気持ちが理解できない限りしつけも子どもの心と体の中に定着することはありません。そうしたほうが心地よいことを子ども自身に感じてもらうことが心の教育です。このことを教えないとルールだけを守る人間になるのです。

そして、もっとも大切にしたいのは信念を持ってゆりの樹が考える「10E」を生きること。

エコ・エンバロメント

常に自分の心と体の健康に気をつけること。そのためには自分の周りの物的、人的環境を整えること。愛のある言葉、夢、希望が持て、勇気が出る言葉をしっかりと食べる「心の朝ごはん」、そしていつも自分のことを理解してくれ、共感してくれる人を見つけておくこと、「心のウンチ」ができる場所があることが大切です。



しっかり心の朝ごはんを食べたら、うんちを出すことも大切、もし、心のうんち（不満、不安な、怒りなどの感情）を出すことができなかつたら、抑圧となって、それは変な形となって爆発するのです。だから、時、場所、相手、タイミング、言い方を考えて、上手に出すことが大事です。

エデュケーション・エモーション

エデュケーションは先に述べた、ゆりの樹の三つの教育、三つのかわり、三つの柱です。そして、その実現の為に、「ゆりの樹の10E」があります。心の朝ごはんと心のウンチを上手にすることが「ゆりの樹の10E」につながります。なぜなら、先に述べたように、その行動がどのような、自分の心の奥底にある動機、感情に突き動かされているかが大切だからです。

だから、感情・エモーションに気づくことが一番大切です。自分の感情に気づかない限り、自分がどのような感情、動機に突き動かされて行動しているのか気づかない限り、自分の行動は納得できなくなるのです。

感情に気づかない限り、自分が、居心地がいいか、悪いかも自分で分からないので、自己選択、自己決定もできないのです。感情に気づけば、自己選択、自己決定ができ、自分を承認し、自信がつき、自分に自信があるから、自己分離し、他人も自分も「これでよし」と、共感し、そこに真の自立があることは、「ゆりの樹の教育方針」ですので、もう既に充分ご存じのことでしょう。

これが自他肯定です。自他肯定できるからこそ、素直な言葉が出てきます。自分の心の声、感情に素直であれば、他人の目を気にして、フリをしなくて済みます。

エンパワメント・エンターテイメント・エンジョイ・エクセレント

人間力・エンパワメント（色々な人や本がどんなに良いことを教えてくれ、私達が進む道を示唆してくれても、自分がその道を進みたい《進むべきではなく進みたいという気持ちが大切。人生はshouldからWillへの転換が大切。他人がどう思うかを気にした「すべき」から「自分がどうしたい」のかという切り替えが大切。》それが人間力）が増してきて、他者を理解することにもつながるし、どんな自分も受け入れる事が出来るようになるのです。

結果として、心がリラックスし、どんなことも楽しんで・エンジョイして取り組める大人に育っていくことが出来るようになるのです。そして次に、自分が楽しければ、人間はそれを伝えたくなる・エンターテイメントです。楽しんで、伝えて、伝わったら、嬉しくて、また伝えて、楽しんで、それが仲間づくりに発展するのです。自分の感情、どうしたいかに気づいて、見返りを求めずにいれば、最後まであきらめなくて、伝わるまで、伝え続けることもできるようになるのです。それが人生をエクセレントにするのです。

エクステンジ

自分の根本は変えられない部分もあります。どんなに努力をしても、結局、元のままだった、変れないと感じることもあるのです。そう感じるのも間違っていないのです。違う自分になることは苦しいのですね。だからこそ、少しだけ行動を変えればいいのです。少しだけ行動を変えることが、人からは違って見える、人から成長したと見えるのです。だから、小さな行動ステップでいいのです。自分を客観的にみて、少しだけ行動を変えてみましょう。勇気をもって。そして、行動を変えることで、自分の中の奥底に、いつの間にか変化が起きているのです。それが成長です。



ゆりの樹幼稚園がのぞむ人間像

- 1、心と体が健やかな人—明るく、元気
人の良いところに焦点をあてることができる
- 2、謙虚な人—清く、優しい
人の成長を自分の喜びとし、手柄を自慢しない、相手をたて、「ごめんなさい」が言える
- 3、正直な人—自己肯定、素直
「わからないことはわからない、教えて、助けて」と言え、聞くことができる
- 4、感謝できる人—他者肯定、愛らしい
起こることすべてを受け止めて、必要だった、だからよかったと感じ、「ありがとう」が言える
- 5、柔軟性がある人—かしこく、温かい
外(クレーム・アクシデント) 内(自分の問題・ストレス)のどんな変事にも対応しようとする
- 6、勇気がある人—どっしりとして力強い
自分を信じて新しいことにチャレンジ、最後まであきらめないで一歩を踏み出すことができる
- 7、自己責任がとれる人—凛として、おだやか
言い訳をせず、人のせいにしない
「だって・でも・どうせ」を言わないで、今、何ができるかを考えようとする

このことの実現なくして、適時、適量の言葉かけは出来ません。このような親、教師、子どもの関係が築けたときその集団はきっと成長していくのでしょ

この実現のためにゆりの樹幼稚園の「教育理念や教育目標、10E、目指す人間像」があります。この実現のために、どうぞ、手を取り合っていきましょう。かわいい子ども達の為に。次世代のために。それは、とりもなおさず、人間として自己成長につながります。前を向いて歩くことが大切です。

失敗したら、そこで学ばないのです。次にどうしたらよいか、考えればよいのです。

怖いのは、失敗を恐れて一歩を踏み出せないことです。

迷いながらも、勇気を持って挑戦する事は、人を成長させます。

『青けは人の為ならず』、結果として、自分にすべてかえってきます。

目の前の事柄や手段や結果のみこりまわされず、問題の奥底にあるものに目をむけていきましょう。





ノートルダム清心学園理事長『渡辺和子先生』のもうひとつの言葉

「面倒だからしょう。」

面倒だからしょうはおかしな言葉かもしれません。「面倒だからよそう」があたりまえでしょう。面倒くさがりだからこそ言い聞かせている言葉なのです。

「しょうか、どうしようかと迷ってもいい。でもそこで自分の怠け心と戦った時に、初めて、本当の美しさ、自分らしさが生まれてくるのだと思う。

「小さなことこそ、心を込めて、ていねいに 大きな愛をこめて・・・」

ふかい自分を受け入れ、機嫌よく、感謝を忘れずに生きる
幸せは、いつもあなたのところが決める」

「よりよく生きるということは自分中心に生きようとする傾向と戦うこと」

人は誰でも楽な道を進もうとする、そんな自分に打ち勝つ強い心を持つとう

「価値があるから生きるのではない」

生きているから価値がある。つまづくのは当たり前。躓いたおかげで気づくものがある。」
何が出来ても、何が出来なくてもいい。どんな人でも生きているだけで価値がある
親切でなくても親切さにかける自分に気づいておく

「愛想が尽きるような自分を見捨てないこと」

自分を愛せない人は人を愛せない。ありのままの自分を受け入れた時、
心の中に優しさと強さをもうことが出来る



「一回一回が仕始めで、仕納め」

毎回新しい気持ちで取り組み、これが最後だと心して、一日一日を丁寧に生きよう

「同じことは二度とない。だから、今という時を大切にする」

人生で経験する出来事はどれもたった一度だけのこと。
どんなに望んでも、どんなに後悔しても全く同じことは起きない。
一つひとつの体験に心を込めましょう

今年一年も、子ども達、保護者の方、職員と共に歩き、驚き、響きあいながら、共に成長したいと思います。

明日生きている保証は誰にもありません。今、自分が発した言葉が、今、自分が起こした行動が、周りの人にとって最後の言葉、行動になってもいいと思える人生を、園児、保護者の皆様、職員と過ごしたいと思いません。

「愛と思いやりをもって、自信をもって決意できるように・・・」

最後まで読んで頂きありがとうございました。今年度も心を一つに頑張ります。どうぞ宜しくお願いします。

